

9月議会
定例会

今年の米の概算払金は

12,100円

9月議会定例会が、9月13日から22日までの7日間にわたり開催され、条例の一部改正や令和5年度各会計補正予算案などの18議案と諮問1件、報告2件、認定1件の計22件が提案、可決され、令和4年度歳入歳出決算について認定されました。



行政報告

◇稲作の作柄状況等について

8月21日現在の能代山本地域の水稻の生育状況は、平方メートル当たりの穂数は418本で平年の94パーセントと少な

くなっております。1穂当たりの着粒数は、76・9粒で、平年並みですが、茎数不足による穂数の減少により、平方メートル当たりの着粒数は例年の94パーセントに止まっております。刈り取り時期は、今後の天候にもよりますが、本年は、高温により登熟速度が早まっていることから「あきたこまち」は9月14日、「めんこいな」は9月20日頃になると思われます。

なお、東北農政局が8月31日に発表した秋田県の作柄概況は「平年並み」となっております。

今年の米の概算払金は、9月8日に開催されたJA組合長会議で決定され前年同期に比べ1,000円高い12,100円となりました。資材高騰による生産コストの上昇などにより、昨年に続いての増額となったようであります。今後は、JAあきた白神独自の加算金も含めた金

額が検討され「概算金」が決定されることとあります。

今年で13年目となるリンドウは8月21日までの販売において、出荷本数172,785本、販売金額7,576千円で、昨年同期と比較して本数で4,965本、販売額で2,530千円の減となっております。

販売額減の要因としては、天候により生育が前倒しとなり、お盆時期に花が残らなかったこと、当町の出荷のピークが市場単価が安値の時期になり、売上に伸びが見られなかったことによりです。

天候に左右される露地栽培物の欠点が顕著に現れた結果と考えております。

今後は、晩生品種の導入を図るとともに、場合によっては、冷蔵施設等を整備した出荷調整等も検討しなければならぬと感じております。

矢野上野地区サテライト団地整備事業は、現在、奥岩本の旧苗畑において1ヘクタールのネギ栽培と、ビニールハウスでの山ウドの栽培を行っております。

山ウドについては1月から3月までの出荷額が1,781千円と、昨年同期比761千円の減となりました。

ネギについては、8月に入ってから夏

ネギの出荷が始まっており、8月末までに1,354千円の売上となっております。

今後は秋冬ネギの出荷へ向けて良質品の出荷ができるように、関係機関との連携を図りながら適宜対応してまいります。

綿羊の飼育状況については、今年の出生子羊119頭のうちラム肉用80頭とし、残りは来年のホゲット用と繁殖育成用に向ける予定であります。今年度の屠畜頭数は、ラム用80頭、ホゲット用20頭、マトン用35頭を予定しております。

首都圏での消費は、回復の兆しはあるものの厳しい状況であることに変わりはありません。出荷に向けては、卸業者との打合せを重ねており、10月開催の都内での「白神ラム賞味会」を消費拡大のきっかけに出来ればと考えております。

また、11月中には、町内及び能代山本管内を対照とした「白神ラム賞味会」を開催することとし、委託料として補正予算を計上しておりますので、よろしくお願いいたします。

今後も、町内での消費拡大、首都圏以外での新規取引先の開拓などを視野に入れ「白神ラム」の販路拡大に向け、卸業者、加工センターとの連携を図ってまいります。

新規就農者による綿羊飼育は3年目となります。子羊の出生、生育も順調であり、出荷においても今のところ問題は発生しておりません。今後は、安定した事業として確立できるよう、必要に応じて支援をしてまいります。